

♪三多摩アコーディオングループ「第7回そよ風コンサート」ぶらり訪問記♪

2009年9月6日(日)14:00 開演

会 場 小平市中央公民館 2階ホール

西武多摩湖線「青梅街道」駅より徒歩5分

主 催 三多摩アコーディオングループ

講 師 青山義久 ●入場無料



みんなで歌いましょうの伴奏の様子

□“もう少し鳴かせて”と申し訳なさそうなツツツクボウシの鳴き声に夏の終わりを感しながら西武多摩湖線の青梅街道駅から線路沿いを5分ほど国分寺駅方向へ歩くと会場に到着です。

第7回そよ風コンサート

■オープニングは「魔女の宅急便より」風の丘の合奏。今日のコンサートをイメージするように静かに落ち着いた幕開きでした。

■プログラム順では、2番目に7名で「青い影」を演奏。3番目の「大きな古時計」は4人の重奏、しっとりとした重音が綺麗な演奏でした。次は独奏で「ウイーンわが夢の都」司会者のコメントによると、作曲者ルドルフ・ジーツェンスキーはこの一曲で有名になったと言われているそうですが、流れるメロディー、ベースとのバランスも良く綺麗な演奏でした。次も独奏で「ビヤ樽ポルカ」、調子の良い曲なのでついテンポが速くなってしまふとのコメントがありましたリズムに乗ってとても安定した演奏でした。次の「慕情」のテーマは映画を見た方は勿論ですが、そうでない方もどこか心に触れる旋律に聴き入っている様子でした。独奏が続き「サン・ジャンの私の恋人」は、早いパッセージのところは少しもどかかったけれどメロディーが良く流れ、左手ベースもとても軽やかで素敵な演奏でした。次は重奏で「女学生」、65年前、中学三年の頃学校での思い出の曲だそうで、テンポはゆっくりめだったけれど三人の音がしっかりつながり編曲も良かったと思いました。重奏のよさを感じる演奏でした。一部の最後は講師の演奏、今回はリズムをしっかり刻

むというよりはメロディーが流れるようなヨーロッパのコンチネンタルタンゴです、とのコメントで「夜のタンゴ」「ジェラシー」、おまけにプログラムになかった「碧空」を演奏。

■休憩を挟んで[II部]は、みんなで歌いましょう(上の写真)に続き、ジョンホード監督の映画でお馴染みの「駅馬車」の重奏。そして「悲しき天使」、「ケセラセラ」、「主よ、人の望みの喜びよ」と独奏が続きました。「主よ、…」は演奏者による編曲でフリー



ベースでの演奏でした(左の写真)。続いての独奏「オリーブ・ブロッサム」は、家事や子育てのあわただしい日常から抜け出して、乾いた心を癒してくれるので普段は自己満足的に弾いてますとのコメントでしたが、ペローの返しは上手なので音のつながりがきれいでした。暗譜でとても自然に弾いていたので、音にもおびがあり、かなり弾きこんでいるのだらうなと思いました。次は4人の重奏でチャイコフスキー作曲の「アンダンテ・カンタービレ」。最後は「コンドルは飛んで行く」の全員合奏(下の写真)で終了でした。

■殆どが講師である青山先生の柔らかいぬくもりの感じる編曲と言うこともあるのでしょうか、力みのない柔らかい音でした。欲を言えば少し強調するフレーズがあっても良かったと思いましたが、無理のない演奏は安心して聴くことができました。

(文：乙津)

